

4 コマまんがづくり(紙芝居)

□所要時間	60 分～90 分程度
□主なスキル	口頭アウトプット（スピーキング）
□形式	例）ペア、4 人のグループ
□概要とねらい	
多読は、リーディングによるインプットを大量に得る個人活動です。受動的スキルに加えて、能動的スキルを使うアウトプットの機会を提供するためにスピーキング・アクティビティを授業に導入します。	
□事前準備（必要な教材、器具など）	
・ 4 コマまんがシート。4 つのボックスを印刷した B4 あるいは A3 用紙（下記の参考ワークシート参照） ・ 文具/マーカー、色鉛筆、クレヨン、絵の具、コラージュ用の色紙や写真、糊、ハサミ等 ・ 紹介する本 ・ 書画カメラ、プロジェクター（オプション） ※ B4 あるいは A3 の画用紙（紙芝居にする場合）	
□手順	
ここでは 4 コマまんが作成の手順を記します。 1. 授業参加前に今まで読んだ本の中からお薦めの 1 冊を選び再読し、物語のテーマ、プロット、キーとなる要素などを捉えておくよう伝える。次回、4 コマまんが（イラスト）を作成するため、上記の準備品を持参するよう伝える。 2. 授業では 4 コマまんがシートを配布し、各自、お薦め本のプロットを示す場面を描き入れる。物語によっては必ずしも明快な起承転結に則っていない場合もあるが、起承転結を含めて物語の構造について言及するとよいだろう。さらに、イラスト中に物語のキーとなるモチーフを含めるようにする。本活動は美術やデザインの授業ではないため、必ずしも美的完成度を求めることが目的ではなく、お薦め本を紹介する際に、聞き手の理解を助ける Visual Aids であることを強調する。絵を描くのが不得手な場合は「棒人間」のようにシンプルな視覚情報でもよい。教師は机上巡回し必要に応じて助言を行う。 3. 小グループ内で順番に 4 コマまんがシートを見せながらストーリーテリング、物語のキーや、なぜそれが重要要素と思ったかを紹介する。紹介後、Q&A や感想を交換する。全て英語で行うことが困難なクラスでは、英語プラス日本語で補足する方法をとる。	

4. 時間的に余裕がある場合は、各グループから Best Cartoonist/Performer を選び、クラス全体に向けて、書画カメラを用いて 4 コマまんがシートを見せながら物語の紹介をする。紹介後、教員から一言、感想を伝え言語や表現に関する助言や評価をする。
5. 5 分ほど振り返りの時間を取り、読み手としての振り返り（自己評価）、聞き手として他の読み手の評価をする。

※ 1 コマのイラストを A4 や B3 の紙に別々に準備することで紙芝居に仕立てることも可能です。紙芝居として発表する場合は、さらに紙芝居の上演ポイントを伝え練習すると、よい表現活動となります。

【学生の反応】

絵が得意でない学生がおそろおそろ絵を見せて発表するような場面もありますが、ことばによる語りと視覚情報の組み合わせでのお薦め本紹介のため、発表者も聞き手も充実した活動になることがほとんどです。絵が得意な学生は、作品作りの段階から積極的に取り組みます。「絵を描くのは小学校の図工以来で楽しかった」「級友の作品が良かった」「級友の発表を聞いて、その本を読みたいと思った」「以前読んだことがある本が紹介されていて共感した」等のコメントが毎回寄せられます。

【応用・解説】

ここでは個人活動として、4 コマまんが/紙芝居を作成し本の紹介を行いました。グループで同じ本を読み(Shared Reading 活動)、その物語の 4 コマまんが/紙芝居を共同作成し、発表することも可能です。

このアクティビティに限りませんが、構想を練る、作業をする過程に費やす時間が学生間で異なるため、時間が足りないと感じる学生がいる一方、他の学生の作業完了を待たなければならない場合があり、配慮を要する場合があります。また、授業時間が限られていることも多いでしょう。そのような場合、作画は授業外課題にします。

(文責：草薙優加)

Cf. 参考ワークシート

4コママンガの記入用シートです。B4あるいはA4の紙に印刷し配布します。

Your Name _____ ID _____

Title: